

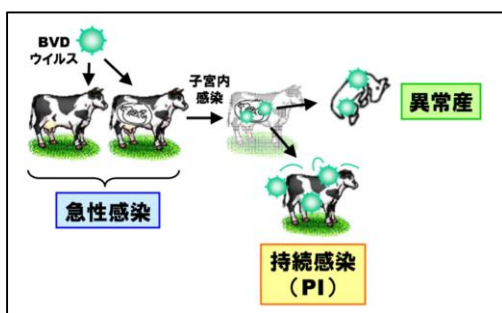
牛ウイルス性下痢の対策をしましょう

牛ウイルス性下痢は、牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）感染により起きる疾病で、家畜伝染病予防法における届出伝染病に指定されています。通常の牛は、BVDVに感染すると、季節に関わらず、発熱、下痢、呼吸器症状、乳量低下及び繁殖障害等の一過性の症状を示します。一方、免疫のない妊娠牛（特に胎齢80日～120日の間）がBVDVに感染した場合は、死産を引き起こすだけでなく、生まれた子牛は全て持続感染牛（PI牛）となります。PI牛は、大量のウイルスを生体排泄し続けるため、農場の汚染源となります。さらに、PI牛から生まれた子牛は必ずPI牛であることから、対策を講じないとBVDVの感染源が増加していくこととなります。このことから、BVDVがまん延している農場は、持続的な死産の増加や乳量の減少等により、農場の生産性が大きく低下することとなります。

牛ウイルス性下痢は全国的に発生件数が増加傾向にあります。本県でも令和2年（2020年）7月22日時点で、26戸で422頭を検査しており、このうち3戸で4頭のPI牛（疑い含む）が摘発されています。農場にBVDVを侵入させないことに加え、農場内でBVDV感染を拡大させないためには以下の対策が重要です。



PI牛（削瘦、ウマズラの顔貌）



BVDVの病態

出展：動物衛生研究部門HP

○ウイルスの侵入防止対策

畜舎の清掃や消毒等の飼養衛生管理基準の徹底とともに、牛を導入する場合は、導入元で抗原検査（遺伝子検査等）を実施し、陰性であることを確認することが重要です。

○健康観察、PI牛の早期摘発及びとう汰

BVDVの関与を疑うような症状（冒頭記載）が見られたときは、早めに管理獣医師を通じ、家畜保健衛生所へ病性鑑定の依頼をお願いします。PI牛に対する有効な治療法はありませんので、早期摘発・早期とう汰をすることが感染拡大を防ぐ上で重要です。なお、PI牛をとう汰される際は費用の一部が補助される場合がありますので、事前に家畜保健衛生所に問い合せください。

○予防接種（ワクチン接種）

ワクチン接種は大変有効な手段です。ただし、妊娠牛に生ワクチンを接種すると胎子に感染してPI牛が生まれることとなるため、不活化ワクチンを接種してください。

家畜伝染病予防法改正に係る説明会を開催しました

6月30日及び7月2日に管内養豚農家及び市町等を対象とした家畜伝染病予防法改正に係る説明会を開催しました。

説明会では、家畜伝染病予防法や飼養衛生管理基準の改正概要を説明するとともに、防鳥ネットの設置等に係る補助事業についても紹介しました。

特に新たな飼養衛生管理基準（豚）では

- 飼養衛生管理区域ごとに飼養衛生管理者を選任すること
- 畜舎等への野鳥等の侵入防止措置（防鳥ネットの設置）
- 衛生管理区域への野生動物侵入措置（防護柵の設置）
- 食品循環資源の飼料（食品残さ）の利用時における加熱処理等の項目が義務付けられることとなります。



6月30日の会議の様子

悪性家畜伝染病が侵入した際には、発生農場だけでなく、地域全体における封じ込めが必要となります。畜産農家の皆様におかれましては、日頃から飼養家畜の十分な健康観察を行うとともに、飼養衛生管理基準の自主的チェックと改善及び定期的な農場消毒をお願いします。

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

| 病名 | 型 | 発生地（国） | 畜種 | 発生日月日 |
|----------------------|------|----------|----------|--------------------------------------|
| 高病原性 鳥インフル エンザ | H5N5 | 台湾 | 地鶏 | 令和2年（2020年）6月18日 |
| | H5N6 | ベトナム(2件) | 家禽 | 令和2年（2020年）6月25日 |
| | H5N6 | フィリピン | 採卵鶏 | 令和2年（2020年）7月6日 |
| | H7N7 | オーストラリア | 家禽 | 令和2年（2020年）7月24日 |
| ASF | | 韓国(38件) | 野生イノシシ | 令和2年（2020年）7月1日 ～令和2年（2020年）7月31日 |
| | | 中国 | 豚 | 令和2年7月22日 |
| | | ロシア(27件) | 豚、野性イノシシ | 令和2年（2020年）7月1日 ～令和2年（2020年）7月31日 |
| | | ウクライナ | 豚 | 令和2年（2020年）7月22日 |

令和2年（2020年）8月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

